

羽 止佳

いきいき狭山人
ひと



読書の楽しさと大切さそして
自分の夢を簡単にあきらめない…
作品をとおして子ども達に伝えたい

「むかし、人びとは貧しくて、リュウを一匹育てあげて、立派な大人になっていった。ところが、人は樂することを覚え、それをやめてしまった」そんな物語の世界を設定した童話・リュウジン山ラプソディの作者、柏原在住の加藤圭

子さん。この作品で、第37回埼玉文芸賞・児童文学部門で正賞を受賞しました。

昭和54年から23年間、小学校で教諭をしていた加藤さんは、産休中に雑誌に投稿して、入選したのが、児童文学の世界に入るきっかけでした。小さいころから本を読むことが

自分が楽しくなければ、読んだ人に楽しんでもらえませんね…

大好きで、学生時代は歌を作るなど創作活動に夢中でした。教員試験の面接で、児童文学をおとした教育がしたい」と答えたことを今でも覚えていそうです。児童文学は、評価するのは大人ですが、読者は子どもです。作品の完成度だけでなく、子ども達に安心して読むんでもらえる内容であることも重要な要素です。今回の受賞は、子ども達に安心して手渡せる作品だと評価されたことが何より嬉しい」と、加藤さん。

「やっと児童文学を書いていると、胸を張って言えます」と笑顔で話してくれました。

童話の創作は、ストーリーなど、すべて自分で考えなくてはなりません。私の場合、最初に映像が浮かびます。その映像を文章に表現するのですが、簡単にはいきません。文章にしたものを何度も練り、もう一度、映像と文章を重ね合わせていきます。そして、作品が一冊の本になったとき、そこに描かれた世界は、作者から離れ一人歩きしていきます。子育てと一緒にですね」と作品への思いを語ります。



編集形式の短編オムニバス
リュウジン山ラプソディ

「自分の意思で生活の歯車を止め、読書する時間を作ることは自律という宝」と続けま

す。そして、私は、本を嫌いな子ども達はいないと信じています。昨年、市の図書館協議会委員に選出されました。本を読む楽しさや大切さを伝えたいです」と語ってくれました。今、加藤さんの頭の中には、どんな楽しい映像が浮かんでいるのでしょうか。これから生まれる作品が楽しみです。

加藤圭子さん(柏原在住)

第37回埼玉文芸賞
児童文学部門・正賞を受賞

市民みなさんの声

オピニオン

リニューアルした広報さやま

子育てカレンダーが便利に

広報さやまは、今年4月から月1回の発行になったことで、「より読みやすく、分かりやすく」をテーマに、紙面構成の全面リニュー



アルを行い、活字を大きくしました。そこで今月は、水野公民館で子育て中の皆さんに、新しくなった広報さやまについて、ご意見や感想を伺いました。

子育て講座・ふたばくらぶの皆さん
ご意見・感想 文字が大きくなって見やすくなりました。情報ガイドには、写真をたくさん使ってください。子育てカレンダーは、1か月分の子育て情報が一目で確認できるので便利だと思います。月1回になったのは残念です。経費の関係もあるので仕方ありませんね。たくさんの市民が登場しているので、身近に感じられ、よいと思います。ひと・まち・写真館など、写真はカラーだともっとよいですね。講座などは、講師の名前も掲載してほしいです。市の考え方

貴重なご意見をいただきありがとうございます。広報課では、皆さんのご意見を参考にし、身近で、役立ち、楽しんでいただける広報紙づくりに努めていきます。今後も皆さんのご意見、ご感想をお寄せください。

担当 広報課

皆さんの「声」をお待ちしています。お寄せいただく際は、住所、氏名、電話番号をご記入ください。☎2954 6262(代) Eメール koho@city.sayama.saitama.jp

異国で言葉が通じないことは、とても不安なこと。私たちが国際交流協会のボランティア会員14名は、毎週日曜日に新狭山公民館で、在住外国人が日本語を学ぶ手助けを行っています。教室への参加者は、企業研修や留学、結婚などで来日した方たちで、年齢や語学力、目的意識まで十人十色です。そのため、それぞれの参加者に合わせたテキストを使うなどの工夫をしています。教室では、参加者の学習に対するひた向きさに、常に驚かされています。そして、日本語が上達し、教室から巣立っていく姿を見届けるのが、私たちにとって寂しくもあり、うれしいことです。また、毎年6月に中原公園で行われる「あじさい祭り」並びに国際交流の集いに参加し、2月には中央公民館で日本語発表会を開催しています。「言葉」は、コミュニケーションの大切な道具です。この教室をとおして、外国の方との輪を広げていける幸せを感じながら活動を続けたいと思います。問合せ国際交流協会事務局へ
2952 4584

私の好きな景色...

茶畑と山並み



私は写真が趣味で、市内の風景を撮影しています。特に、自宅付近の南小学校(水野)から見る夕日が好きです。この辺りは、お茶畑が一带に広がり、この季節、春の日差しをいっぱい



元木良成さん (水野在住)



が澄んでいるときは山並みの中に富士山がくっきりと浮かんで見えます。散歩がてら足を運んではいかがですか。次回は、柏原在住の方へ

南小学校校庭から望む (写真は元木さん撮影)

Hello ハロー 仲間たち

Vol.297



日本語教室は、中央公民館と広瀬公民館にもあります

日本語教室 日曜日コース

異国で言葉が通じないことは、とても不安なこと。私たちが国際交流協会のボランティア会員14名は、毎週日曜日に新狭山公民館で、在住外国人が日本語を学ぶ手助けを行っています。教室への参加者は、企業研修や留学、結婚などで来日した方たちで、年齢や語学力、目的意識まで十人十色です。そのため、それぞれの参加者に合わせたテキストを使うなどの工夫をしています。教室では、参加者の学習に対するひた向きさに、常に驚かされています。そして、日本語が上達し、教室から巣立っていく姿を見届けるのが、私たちにとって寂しくもあり、うれしいことです。また、毎年6月に中原公園で行われる「あじさい祭り」並びに国際交流の集いに参加し、2月には中央公民館で日本語発表会を開催しています。「言葉」は、コミュニケーションの大切な道具です。この教室をとおして、外国の方との輪を広げていける幸せを感じながら活動を続けたいと思います。問合せ国際交流協会事務局へ
2952 4584